

ペトロ 3：9－12 「祝福された人生をあなたに」

こないだ、ある若いカップルの結婚式に行ってきました。ふたりとも、式の最初から最後まで、ニコニコと満面の笑みを浮かべて、ほんとうに幸せそうでした。そこに祝福を見ることができました。

祝福って、なんでしょうね？ 若い二人が結婚するときに、そこには最低でも四人の気難しい大人たちが深く関わって来ることになります。気難しい大人っていうのは、親のことですね。二人の父親と二人の母親。このうち、だれか一人でも「俺はこの結婚には大反対だ！」と怒鳴る親がいたりしたら、新郎新婦は満面の笑みで式に臨むことは難しいでしょう。気難しい四人の大人が、その気難しさをすっかり捨て去って、「よかったね、ほんとうにおめでとう」と心から祝福するならば、それがほんとうの祝福です。そのときはじめて、新郎新婦は心から幸せを実感することができるでしょう。これは言わば、祝福における「合意の原則」ですね。

神と人との関係においても、この「合意の原則」があてはまるでしょう。わたしたちは、みんな幸せを追い求めて生きています。やりたいことを、やりたいように、やる。そういうふうには、短絡的に幸せを求めるときも、あるでしょう。しかし、自分がやりたいことを、やりたいように、やっているときに、ちっとも幸せを感じられないことがあります。幸せになりたいと思ってやってるはずなのに、ちっとも幸せを感じない。不思議ですね。

それはきっと、心のどこかで

「ほんとは、こんなことしては、いけないんだ」

「人としてゆるされないことを、してしまってるんだ」

「もし神様がいたら、どんなにか怒ってることだろう」

「このままだったら、地獄に行ってしまうかもしれない」

「神様、ごめんなさい」

そういう気持ちが、どこかにあるからではありませんか？ 神様が喜んでくださり、神様が祝福してくださり、神様が「うん、うん、そうだね、よかったね」

と言ってくださらないならば、わたしたちはだれも本当の意味で、幸せを心の底から実感することは、できないんですよ。

今日の聖書で宣言されていることは、「祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです」ということです。わたしたちは、罪を犯して地獄に行くために存在しているのではない。神様は、わたしたちを祝福するために、わたしたちを造ってくださったのです。わたしの人生は何のためにあるのか？ 祝福を受けるための人生だ、というのが答えです。

でも、「合意の原則」を思い出してください。神様の願いと、わたしたちの願い。この二つの願いが完全に一致したときに、本当の祝福があるのです。神様の願いと、わたしたちの願いが、少しも矛盾することなく、完全に一つに溶け合って一致することのできる場所。そこに、本当の祝福が生まれるのです。

神様の願いと、わたしたちの願いが、完全に一致する場所。そんな場所が、この世界にあるんでしょうか？ あるんです。神様の願いと、わたしたちの願いが、完全に一致する場所。それがイエス・キリストの十字架です。

わたしたちの願いは何でしょうか。それは、死にたくない。地獄に行きたくない。幸せになりたい。それが、わたしたちの心の底からの願いです。

わたしはある時、大戸屋でお昼ご飯を食べていたら、隣の席の若い女性たちの会話が耳に入って来てしまいました。

「あたしさ、パソコンの中にさ、ほんといろいろ恥ずかしいデータが入ってるからさ、絶対死ねないわ。あれ見られたらと思うと、絶対死ねない」

「うん、うん、あたしもそう。絶対死ねないわー」

思わずトンカツのソースが鼻から出そうになってしまいましたけど、わたしたちはみんな、自分が神様の前に正しくないことをしている、ということ、気づいているんですよ。わたしは神様の前に正しくない。だから死ねない。死にたくない。きっと地獄に行ってしまうから。

死にたくない。地獄に行きたくない。幸せになりたい。これが、わたしたち人間の側の願いです。これに対して神様の願いは、「わたしはおまえの罪を取り除こう」　これが、神様の願いです。

わたしはある時、めいちゃんという2歳の女の子が、おいしそうに口をもぐもぐしているのを見て、「あら、おいしそうですね。なに食べてるの?」と聞きましたら、べーっと舌を出して、舌の上には安全ピンがのっていました。わたしは思わず「ばかだねあんたは！　ぺってしなさい、ぺって!」と叫んで、安全ピンをつまみ出しました。わたしたちも心の中から罪を取り除いてもらわなければ、死んでしまいます。神様は、わたしたちの罪を取り除くために、ご自分の愛するひとり子イエス・キリストを十字架につけてくださいました。

伊吹雄という新約聖書学の先生がおりまして、ヨハネ福音書を専門に研究しているひとですが、この方がハインリヒ・シュリーアというドイツの神学者が書いた『キリスト者の実存』という本を教科書に、ドイツ語を教えてくださいました。ドイツ語の方はもうすっかりわすれてしまいましたけど、伊吹先生が授業でこうおっしゃったのを今も忘れることができません。

「イエス・キリストというのはスポンジのようなものです。大きな大きなスポンジです。そのスポンジが、わたしたち人間のすべての愚かさ、失敗、罪というものを、全部吸い取ったのです。そうして、そのスポンジは十字架につけられて、処分されました。こうして、わたしたち人間の罪は、取り除かれたのです」

神様の願いは、「わたしはおまえの罪を取り除こう」という、これが神様の願いです。人間の願いは、「死にたくない、地獄に行きたくない、幸せになりたい」という、これが人間の願いです。この神様の願いと、この人間の願いは、完全に溶け合って一つになったのが、主イエス・キリストの十字架であるのです。

ヨハネの黙示録第3章14節で、イエス・キリストは「アーメンである方」と言われています。イエス・キリストはアーメンである。アーメンとは、ほんとうにいいね、という意味です。イエス様が人間の罪をすべて背負って十字架で

死んでくださった。だから、人間の罪は取り除かれた。「ほんとうにいいね」と神様がおっしゃってくださる。だから、イエス・キリストはアーメンです。イエス様がこのわたしの罪を、生まれてから今日に至るまで、今日から死ぬ日に至るまでの全部の罪を残らず背負って十字架で死んでくださった。だから、このわたしの罪は取り除かれた。「ほんとうにいいね」とわたしは心の底から思える。だから、イエス・キリストはアーメンです。イエス・キリストは、神様の側のアーメンであり、同時に、人間の側のアーメンであり、このアーメンであるイエス・キリストにおいて、神の願いと人の願いが、完全に一つになるのです。

アーメンですか？ アーメンであるなら、ここから今日、みなさんの祝福された人生が始まります。わたしたちは、ああ、よかった、わたしは生きていいんだ、と本当に心の底から思える。なぜなら、神様が「生きなさい！ おまえが生きるために、キリストは死んで復活した！」とおっしゃってくださるからです。だから、わたしは生きていいんだ。わたしのために死んでよみがえってくださった主イエス・キリストのために、わたしたちは生きるのです。

それは、新しい生き方を始める、ということでもあります。わたしたちはもう、安全ピンを百時間なめていたって、ちっとも幸せになれない、ということ、みんな経験済みではありませんか？ 他人の悪口陰口をわたしたちは50年近く続けていますが、ちっとも幸せにはなりません。おりあるごとに嘘をついて50年近く続けていますが、ちっとも幸せにはなりません。ひそかに悪を行い、他人と仲たがいし、ケンカして50年近く続けていますが、ちっとも幸せにはなりません。安全ピンをあと100年なめたとしても、絶対に幸せにはなりません。これはわかりきったことですよ。

わたしたちは、イエス様の十字架によって罪を取り除いていただきました。ですから、罪を捨てて、安全ピンをはき出して、新しい生き方をわたしたちは始めるのです。「舌を制して、悪を言わず、唇を閉じて、偽りを語らず、悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ」(3：10－11)

わたしたちは、だれも見えていないと思って、安全ピンを口の中に入れました。でも、もうだいじょうぶです。神様がわたしたちのことを見守っていてくださいます。「主の目は正しい者に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる」(3：12) わたしたちは、この人生をひとりぼっちで生きて行くのではない。神様が、わたしたちをいつも見守り、神様がわたしたちの祈りにいつも耳を傾けていてくださる。何のため？ わたしたちを祝福するためです。「祝福を受け継ぐためにわたしたちは召されたのです」(3：9)

最後に、ひとつの詩をご紹介します。

臨在

ウィル・J・ブランド

神の御霊よ！ この台所で
ささやかな祈りをささげます
どうぞあなたが共にいてくださるよう
わたしは感じます、あなたがここに、共に立っていてくださることを
このようにして、これまでも、しばしばご一緒してきました
あなたは目に見えないお方
見えたなら、わたしはとても、平然としておれないでしょう
あなたは神ですから
生身の人間で、神の御顔を見た者はありません
あなたの臨在が、この台所を聖なる場所としてくださる
そして、人間の心が受け取れる、あらゆる恵みを
与えてくださる
わたしが片付けなければならない日常のありふれた家事
つまらぬつとめすら、わたしは一人でやらずに済む
御言葉にあるとおり、一人でいるより、二人のほうが
はるかに良い
聖霊よ、あなたは、わたしの人生の同伴者、わたしの友
本当を言えば、あなたに来てください、とお願いする必要すらない

わたしは、あなたが住む家であり、あなたの神殿なのですから

Wilfred J. Brand, “The Presence” ,
WITH SWORD AND SONG,
SP&S, London, 1975, p. 103.

わたしたちの人生の中に、神をお迎えしましょう。わたしたちはその時、祝福を受けます。イエス様を心の中にお迎えする祈りを、一緒に祈りましょう。

イエスキリストを心に迎える祈り

主イエス様

わたしの今までの罪を、どうぞゆるしてください。

(ここで少し時間を取って、あなたの心に何か具体的なことが浮かんできたら、そのことのゆるしを求めてください)

どうぞ、わたしをゆるしてください。

わたしは、これらすべての罪から離れます。

あなたが十字架の上でわたしのために

死んでくださったことを感謝します。

わたしはゆるされ、自由にされました。

あなたがゆるしてくださり、

聖霊を与えてくださることを感謝します。

今、あなたのゆるしを受けとり、

聖霊をお迎えします。

どうぞ、わたしの人生にお入りください。

そして、永遠にわたしと共にいてください。

主イエス様、感謝します。アーメン

(アルファコースの祈りより)